

ほぐれだより4月

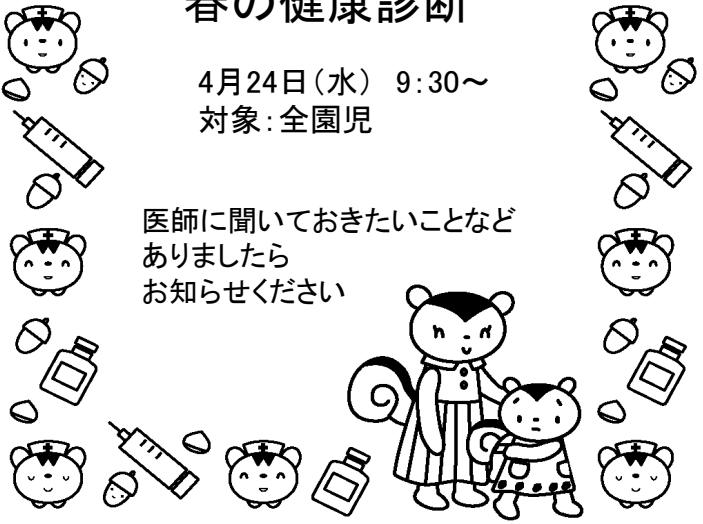
太陽の子保育園 2019年4月号

ご入園、ご進級おめでとうございます。

新しいお友達を迎えて、新年度がスタートしました。毎日忙しい中、お迎えの時や帰宅後もつい気がせくことと思いますが、保護者の方がゆったりとした気持ちで、あたたかく子どもを見守りましょう。あたたかい見守りが、子どもの心の安定につながっていくと思います。子どもたちが健康で楽しい保育園生活を過ごせるように、ご家庭と協力してがんばりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

春の健康診断

4月24日(水) 9:30~
対象:全園児



医師に聞いておきたいことなど
ありましたら
お知らせください

園医さんの紹介

- ・わかさ医院:道佛雅克先生
☎ 042-579-0031
- ・井上歯科医院:井上雄温先生
☎ 042-554-7735

~新しい生活に早く慣れるために~

- 1.早寝、早起きの習慣をつけましょう。
- 2.食事はバランスよくとりましょう。
- 3.お休みの日は無理しないで、余裕ある計画を心がけましょう。



※病気でお休みするときは、必ず病名や症状をお知らせください。

※集団生活では、一番の悩みは他の園児への感染です。特に、発疹・下痢・目やになどが
見られる場合は、登園前に受診し、登園の可否を聞くようお願いいたします。集団生活の感
染拡大予防にご協力をお願いします。

予防接種の効果と副反応について

「ワクチン(予防接種)で防げる病気を
VPDと呼びます。
VPDとは、Vaccine Preventable Diseasesの
略です。

- Vaccine=ワクチン
- Preventable=防げる
- Diseases=病気

現在、国が接種を勧めるワクチン(定期摂取)のVPDの数は、8種類です。これだけの数を接種すると、子どもの免疫に影響を与えるのではと心配になるかもしれませんが、日本に比べてワクチンの種類も接種本数も多い米国では、生後2か月の赤ちゃんは、未熟児でも6種類のワクチンを同じ日に受けます。生後4か月も5種類。ワクチンの種類は合計で16種類にもなります。

ワクチンの効果は非常に高く、たとえば麻疹では、接種した場合95%以上の方が免疫を獲得します。しかし、5%の方には効果がありませんし、時間が経つと感染症に罹ってしまうことがあります。多くの場合は、自然感染により、抗体が再上昇しますが、麻疹のように予防接種がある程度普及し自然の流行が見られなくなった病気には、抗体維持のためMRワクチンの2回接種が必要になります。予防接種の意義は、自然感染における合併症のリスクよりも予防接種による副反応の方が低いことと、予防接種による感染防止または軽減が身体的、社会的に有用であることです。

たとえば、おたふくかぜのワクチン接種を受けると、数千人に1人(0.05%程度)、無菌性髄膜炎(むきんせいずいまくえん)が起きるケースがあります。しかし接種を受けないで自然にかかった場合は、約2%(100人に2人)の患者に無菌性髄膜炎が起こるといわれていて、ワクチンを接種した方が、発生する割合ははるかに少ないのです。また、ワクチンで起こる無菌性髄膜炎は、ふつうはひどくならず、短期間の入院か外来治療で済みます。これらを含めて、副反応があっても接種するのは、副反応より相手の病気(VPD)の方が重大だからです。

4月の羽村市健康診査予定

3~4か月健診 4/19(金)
H30.12月生まれ対象

1歳6か月健診 4/5(金)
H29.9月生まれ対象

3歳児健診 4/26(金)
H28.3生まれ対象

会場:保健センター

いっしょに子育てをしていきましょう

いっしょに子どもたちの健康について考えていきましょう。けがをした、気分が悪い、頭が痛い、などの症状があるときは申し出てください。そのほか、園でわからないこともあります。お互いに情報交換をするなどしていきましょう。